



EXtra, EXpert and EXtreme EXPRESS--

2009 Vol.

7



Photo by H.Wakita (c)

絶好調の中須賀克行がダブルポールを獲得! 一瞬も目が離せない鈴鹿東コース決戦!! チャンピオンの座をつかむのは果たして!?



ポイントリーダーの酒井大作は、レース1を4番手、レース2を2番手からそれぞれスタートする。

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

10:50 -	ST600 コースイン～選手紹介	
11:05 -	ST600 決勝レース.....	20Laps
11:45 -	JSB1000 コースイン～選手紹介	
12:00 -	JSB1000 決勝[Race1].....	20Laps
12:30 -13:10	ビットウォーク/ノバード走行	
13:30 -	GP125 コースイン～選手紹介	
13:45 -	GP125 決勝レース.....	20Laps
14:25 -	JSB1000 コースイン～選手紹介	
14:40 -	JSB1000 決勝[Race2].....	20Laps
15:25 -	GP250 コースイン～選手紹介	
15:40 -	GP250 決勝レース.....	20Laps
16:30 -	サーキットクルージング(2輪体験走行)	



JSB 1000
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

- 予選日: 天候/晴 路面/ドライ
- 決勝[Race1] コースイン/11:45 スタート/12:00～(20周)
- 決勝[Race2] コースイン/14:25 スタート/14:40～(20周)

ついに2009年シーズンの最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。JSB1000クラスは2レース行われ、MFJグランプリではボーナスポイントが3ポイントつくことから、2連勝すれば最大56ポイントを稼ぐことができる。今回もノックアウト方式で行われた公式予選だがレース1のグリッドはQ1で決まり、レース2のグリッドがQ3までで決まるだけに、Q1から激しいタイムアタックが繰り広げられた。

予選ではゼッケン1をつける中須賀克行が絶好調だ。ダンロップタイヤは東コース専用に左右のコンパウンドの違うタイヤを持ち込んだが、そのタイヤのフィーリングがいいとコメント。中須賀はQ1で決勝用タイヤながら50秒259をたたき出しトップ、Q3では予選タイヤを使い50秒163と、こちらもトップとなり、ダブルポールポジションを獲得した。いずれも2番手をコンマ2秒も離している。短い東コースで、この差は大きい。コンマ2秒離れていれば、独走する可能性もあるだろう。

「みんな、もっとタイムを上げてくと思っていたので意外でした。前回のツインリンクもてぎは、赤旗があって思いきり走ることができなかったのも、今回は勝ちを狙って走りたいですね。とにかくスタートを決めて自分のレースをするだけです」と中須賀。

一方、暫定ランキングトップを走る酒井大作は事前テストの初日に転倒し、左小指を削ったため、その後の走行をキャンセル。レースウィークに入ってから転倒を喫し、やや苦戦気味だったが、ようやくマシンも仕上がってきたようだ。Q3では予選タイヤを投入し、レース2での2番手グリッドを獲得したが、本人的にはタイヤをうまく使えなかったといい、満足のいく走りではなかったようだ。

「毎セッション、セットを変えていたけれど、最後のQ3はユースドタイヤで出ていったときに50秒4が出たし、いいフィーリングだったので、決勝への手応えを感じることができましたね。50秒3から5ぐらいいで走れると思いますよ」と酒井。

(中面へ続く)



#5 秋吉耕佑は決勝レース1を2番手、レース2は8番手からスタート
(表面から続く)

金曜日にトップタイムをマークしていた秋吉耕佑はQ1で、さらにタイムを縮めようとしていたが最終コーナーで転倒。Q1は転倒前にマークしたタイムで2番手グリッドを獲得。Tカーで出走したQ3はセッティングしながら8番手、レース2は3列目スタートとやや苦しいポジションだ。

「ちょうどタイムが上がってきていたところで足下をすくわれてしまった。なかなかうまく歯車が噛み合わないが、レースは大丈夫ですよ」と秋吉。

事前テストで好調だった伊藤真一も安定した速さを見せており、中須賀、酒井、秋吉とトップグループを形成しそうだ。これに山口辰也、亀谷長純が、どこまでついていけるかによってタイトルの行方が左右されるかもしれない。また、高橋巧がQ3で自己最高位となる4番手グリッドを獲得する健闘を見せている。東コースを得意とする大崎誠之も、いい走りシーズン締め



#87 柳川明は苦戦、2レースとも9番グリッドからスタートする

くくりたいところ。さらに中須賀と同じく9ポイント差で酒井を追う柳川明は、事前テストのときに比べ足回りのフィーリングが悪く苦戦。レース1、レース2共に9番手グリッドからスタートする。

1周のラップタイムが僅か50秒の東コースを20周で争われるレース。トップ争いと共に、タイトルの行方も気になる展開になることは間違いない。王座は誰がつかむのか!?

また、JSB1000のレース後は、長い歴史を誇り、世界へ優秀なライダーを数多く輩出してきたGP250クラスが終焉を迎える。2ストローク2気筒の純レーシングマシンの咆哮を、その心に刻んで欲しい。

[佐藤 寿宏]

JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

POLE POSITION INTERVIEW



Pole Position 中須賀 克行

ポールポジションタイム (Race1 決勝) **50.259**
(Race2 決勝) **50.163**

「事前テストから東コースになれるように走り込みに力を入れました。そのおかげもあって、リズムもいい感じに取れるようになってきた。今回は東コース用タイヤを作ってくれたので、マシンもいい仕上がりになっていると思います。Q1では一人で走るよりも後ろに付いて走る方がリズムに乗れたので、誰かを前においてアタックした。ダブルポールを獲れたのですごくうれしいですね。決勝は20周と短いレースですが、体力的に疲労度は高くなるでしょう。バッシングポイントに関してもほとんどないけれど、とにかく前に出てレースをリードして20周を引っ張っていきたい」

JSB1000 Class Starting grid [Race1]

●決勝[Race1] コースイン/11:45 スタート/12:00~(20周)

1	50.259 1 中須賀 克行 YSP Racing Team	2	50.485 5 秋吉 耕佑 F.C.C.TSR Honda	3	50.556 33 伊藤 真一 KeihinKoharaR.T.
2	50.597 39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithJOMO	4	50.68 8 亀谷 長純 Honda DREAM RT 桜井ホンダ	6	50.739 634 山口 辰也 MuSASHi RTハルックプロ
3	50.806 56 高橋 巧 バーニングブラッドRT	7	50.827 2 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	9	51.002 87 柳川 明 TEAM GREEN
4	51.123 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾	10	51.229 77 井筒 仁康 TRICK☆STAR RACING	12	51.314 48 出口 修 PLOT FARO パンテラ
5	51.483 44 児玉 勇太 ウイダーD.D.BOYS	13	51.713 22 浜口 俊之 Team櫻花・橋本組	15	51.742 31 石川 朋之 Z-TECHwithビジネスリアート
6	51.902 32 今野 由寛 MotoMap SUPPLY	16	51.925 83 須貝 義行 チームドゥカティレーシングジャパン	18	51.942 18 東村 伊佐三 RS-ITOH&ASIA
7	52.121 27 西嶋 修 BEET RACING	19	52.146 45 吉田 光弘 Honda緑陽会熊本レーシング	21	52.276 73 久保山 正朗 Honda浜友会浜松エスカルゴ

※[Race1]のグリッドは、ノックアウト公式予選の第1セッションで記録されたタイム順です。

JSB1000 Class Starting grid [Race2]

●決勝[Race2] コースイン/14:25 スタート/14:40~(20周)

1	50.163 1 中須賀 克行 YSP Racing Team	2	50.395 39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithJOMO	3	50.432 33 伊藤 真一 KeihinKoharaR.T.
2	50.644 56 高橋 巧 バーニングブラッドRT	4	50.659 634 山口 辰也 MuSASHi RTハルックプロ	6	50.66 8 亀谷 長純 Honda DREAM RT 桜井ホンダ
3	50.72 2 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	7	50.97 5 秋吉 耕佑 F.C.C.TSR Honda	9	51 87 柳川 明 TEAM GREEN
4	51.086 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾	10	51.374 77 井筒 仁康 TRICK☆STAR RACING	12	51.582 44 児玉 勇太 ウイダーD.D.BOYS
5	51.31 48 出口 修 PLOT FARO パンテラ	13	51.464 22 浜口 俊之 Team櫻花・橋本組	15	51.937 31 石川 朋之 Z-TECHwithビジネスリアート
6	52.043 83 須貝 義行 チームドゥカティレーシングジャパン	16	52.202 32 今野 由寛 MotoMap SUPPLY	18	52.598 18 東村 伊佐三 RS-ITOH&ASIA
7	52.121 27 西嶋 修 BEET RACING	19	52.146 45 吉田 光弘 Honda緑陽会熊本レーシング	21	52.276 73 久保山 正朗 Honda浜友会浜松エスカルゴ

※[Race2]のグリッドは、ノックアウト公式予選の第3セッションまで終了したタイム順です。

POLE POSITION
INTERVIEW宇井陽一がGP250
有終を飾るポール
ポジションを獲得!!

Pole Position 宇井 陽一 (GP250) 51.687

『事前テストは1日だけでしたが、コースも1周が短い分、セッティングにもそんなに時間がかからなかった。東コースのショートカットは初めて。マシンセッティングは、意表を突くようなコーナーと路面のミューの違う関係で、マシンが振られたりするので、自分のバンク角の修正と、その乗り方に合わせて細かく調整した。予選では51秒8は出るだろうと予想していたが、52秒フラットからのコンマ1秒はめちゃくちゃ大きいと感じた。あるきっかけをつかんでコンスタントに51秒台入るようになった。柔らかめのタイヤなので、タイヤに負担をかけないように乗り方を変えながら、セッション最後に再度渾身の力を振り絞ってこのタイムを出す事ができた。1/1000秒がこんなに重く感じた予選は初めてでしたね』

GP250 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	41	宇井 陽一	51.687	立花レーシングwithSpruce/PT
48	G	手島 雄介	51.807	TSR
2	33	藤田 拓哉	51.83	2りんかんRT&DOG FIGHT R
3	3	及川 誠人	51.991	COLT&SJ-R
4	46	星野 知也	52.974	ミクニBeat 4413
5	25	柴原 誠	53.373	K-max racing
6	75	高杉 泰緒子	53.853	バーニングブラッドRT
7	14	福山 京太	53.944	TEAMモトスポーツ
8	22	小口 亘	53.996	ALLMAN&OWRACING
9	24	小口 理	54.236	ALLMAN&OW小口歯科医院
10	19	中尾 健治	54.369	レイラスポーツ
11	26	依田 忍	54.643	Garage 4413
12	62	飯室 英治	54.885	チームドゥカティレーシングジャパン
79	G	朝比奈 正	55.471	アサヒナレーシング

以上予選通過車両:

予選通過基準タイム (110%) 56.855

出走台数 GP250: 12台 GP2プロト: 2台

※G=GP2(賞典外)

●予選・決勝第1レース開催日/10月31日(土)

●天候・路面/晴・ドライ ●周回数/20周

RACE RESULT

●決勝第2レース開催日/11月1日(日)

●決勝コースイン/15:25 スタート/15:40(20周)

GP250第1レースは、宇井陽一が巧みな
ライディングを披露し、トップでチェッカー。
16ポイント差に広げタイトル争いに王手。

土曜日最後に行われたGP250決勝レース1でホールショットを奪ったのはGP2の手島雄介だったが、1コーナーから2コーナーの間に宇井がアウトから手島の前に出る。さらに及川誠人、藤田拓哉も手島をパス。トップ争いは序盤からこの4台に絞られた。手島はレース中盤までにポジションを挽回し12周目にはトップに立つが、バックマーカーが現れ出すと巧みなライディングで宇井がトップを奪う。一方、及川は15周目に4番手まで順位を落としてしまっていたが、気迫の追い上げで18周目に2番手まで挽回。しかしバックマーカーに阻まれ宇井との差が広がってしまう。宇井は最終的に後続に約2秒の差をつけトップでゴール。ポイントでも2位の及川との差を16ポイントまで広げた。手島が3番手でチェッカーを受けたが、GP2は賞典外のため、4番手でチェッカーを受けた藤田拓哉がGP250クラスの3位を獲得。初の表彰台に上がった。

本日のスケジュールの最後に開催されるレース2でGP250の歴史を締めくくるチャンピオンが決定する。



WINNER

優勝/宇井 陽一

『ストレートがあまり伸びなかったけれど、登りのS字はよかったので後半からしっかり攻めることができた。及川さんがいつもより早く抜いてきて、藤田くんにも抜かれてしまったので、今日は乗っていないのかなと思ったけれど、途中で我に返りました(笑)。及川さんも(GP2の)手島くんに対して凄いいアタックを見せていたので僕は少し引いて見ていようと思いました。そのあと及川さんが引いたところで思い切りアクセル開けてアウトから抜くことができ、バイクにトルクがあったので手島くんの前に出ることもできた。鈴鹿で勝てたことが本当にうれしいです』

GP250

決勝レース[レース1]結果

Pos	No	Rider	Team	Lap	RaceTime
1	41	宇井 陽一	立花レーシングwithSpruce/PT	20	17'29.919
2	3	及川 誠人	COLT&SJ-R	20	17'31.991
48	G	手島 雄介*	TSR	20	17'32.380
3	33	藤田 拓哉	2りんかんRT&DOG FIGHT R	20	17'32.596
4	46	星野 知也	ミクニBeat 4413	20	18'02.419
5	25	柴原 誠	K-max racing	20	18'04.543
6	14	福山 京太	TEAMモトスポーツ	20	18'11.453
7	75	高杉 泰緒子	バーニングブラッドRT	20	18'21.832
8	22	小口 亘	ALLMAN&OWRACING	20	18'21.963
9	19	中尾 健治	レイラスポーツ	20	18'22.166
10	24	小口 理	ALLMAN&OW小口歯科医院	20	18'22.883
11	62	飯室 英治	チームドゥカティレーシングジャパン	19	17'37.287
79	G	朝比奈 正*	アサヒナレーシング	19	17'53.533
以上 規定周回数未走:					
26	依田 忍	Garage 4413		11	10'04.962

レース中のベストタイム

No.41 宇井 陽一 51.904 4/20 155.57km/h

規定周回数 15

※セクセン48, 79は、賞典外特別参加です。

EVENT INFORMATION 緊急決定!!中野真矢選手引退記念イベント開催!!

1998年に全日本ロードレースGP250クラスでチャンピオンを獲得。翌99年は世界GPのGP250クラスにフル参戦を果たすと開幕戦で3位、第2戦日本グランプリで優勝するなど輝かしい世界デビューを果たし、その後も最高峰クラスであるGP500クラス、MotoGPクラス、そして今シーズンはスーパーバイク世界選手権に参戦。世界を舞台に活躍した中野真矢選手が今シーズンを持って惜しまれながらも現役活動を終える。

この中野選手の引退を記念して、MFJグランプリの会場では記念イベントが開催されるとともに、様々なイベントに中野選手が参加することが急遽決定した。

引退セレモニー

中野真矢選手引退を記念したデモ走行&インタビューを開催。デモ走行マシンはアプリリアのWSB(ワールドスーパーバイク) ベースマシンの「aprilia RSV4 FACTORY」(公道仕様)。



■日時:11月1日(日) ビットウォーク時 12:30~13:10

■場所:グランドスタンド前および国際レーシングコース東コース

メモリアルトークショー&握手会

全日本GP250最終戦の表彰式終了後、ホスピタリティラウンジでトークショー&握手会を開催。

※握手会の参加は会場にて整理券を配布いたします(先着200名様)。

■日時:11月1日(日)16:30~ (予定)

■場所:ビットビル2階ホスピタリティラウンジ No.11

■対象:観戦券をお持ちの方(※バックパスをお持ちでないお客様のバックへの入場は、GP250クラス決勝レース終了後となります)



GP250メモリアルランにゲスト出演

2009シーズン限りで見納めとなるGP250。そのシーズン最後のメモリアルイベントとして「GP250メモリアルラン」を開催。ライダーには岡田忠之氏、高橋裕紀選手を迎え、往年のGP250マシンの走りをご覧ください! ゲストとして中野真矢選手も登場。

■日時・場所/11月1日(日) ビットウォーク時 12:30~13:10・国際レーシングコース

■マシン(ライダー)/#74 NSR250 岡田忠之氏 #55 RS250RW 高橋裕紀選手

※天候等の状況により、中止となる場合がございます。

RACE RESULT

トップ3が真っ向勝負! 花房一樹が逆転 チャンピオンに輝く!



GP-MONOクラスの決勝はタイトルを争う小室旭、花房一樹、藤井謙汰の三つ巴の戦いになった。レース序盤から後続を引き離していた藤井、小室の2台に追いついた花房は12周目に小室を、13周目に藤井を抜きトップに立つと、追いつく2台を抑えきりチェッカー。優勝をもち取った。小室はラストラップに入る1コーナーで2番手に浮上したが花房を抜くことができず悔しい2位。3位は藤井という結果となった。4位は単独で安村武志。5位には3台による争いを制した中木亮輔が入り、渡辺陽向、小畑仁の順でチェッカーを受けている。花房が優勝したことでランキングは逆転。小室に僅か1ポイントのリードを築きチャンピオンを奪取した。3戦連続表彰台を獲得した藤井がランキング3位。以降、中木、渡辺、谷川杜洋と続き、女性ライダーの丸山美由貴はランキング7位でシーズンを終えている。

WINNER&09CHAMPION

花房 一樹

『なるべくランキングの事を考えず、とにかく勝ちたいと思って挑みました。マシンは事前テストの時からチームスタッフが全く文句の付けようがない仕上がりしてくれていたの、予選は失敗してタイムを出す事ができなかったけど決勝への不安要素はなかった。序盤はトップに離されて単独走行になり、スリップが効かなかったから追いつくのは無理かとも思ったけれど、ダメもとで頑張った。ランキングのことも頭に浮かんだけれど、とにかく優勝だけを目標そうと思った。最終ラップの1コーナーをトップで通過した時“勝った!”と思いました。今までの中で一番勉強したシーズンだったし、応援してくれたみんなのおかげで獲れたチャンピオンだと思っています』

GP-MONO

決勝レース結果

Pos	No	Rider	Team	Lap	Total Time
1	87	花房 一樹	テック2&nyusan.COM/PRCS	15	13'52.133
2	11	小室 旭	Team KOMURO with HARC	15	13'52.252
3	3	藤井 謙汰	TSR	15	13'52.368
4	10	安村 武志	チーム・テック・2	15	13'52.900
5	4	中木 亮輔	オールスターモータースポーツ	15	13'58.785
6	35	渡辺 陽向	TeamProjectu7C	15	13'58.862
7	13	小畑 仁	MOTO WIN RACING	15	13'58.981
8	6	谷川 杜洋	TEAM PLUS ONE	15	14'11.548
9	19	山田 俊樹	MRF&RH松島・隼NTR	15	14'11.619
10	46	星野 知也	ミクニBeat 4413	15	14'11.905
11	5	岡田 義治	MRF&RH松島・隼NTR	15	14'12.050
12	25	高瀬 敬次	近畿スポーツランド マックウエスタン	15	14'12.186
13	95	瀬古 直樹	ZIPBIKE&TOS・R	15	14'12.302
14	52	川村 明	MOTO WIN RACING	15	14'12.590
15	66	丸山 美由貴	オールスターモータースポーツ	15	14'12.796
16	30	矢田 栄一朗	MOTO BUM HONDA	15	14'12.914
17	37	坪川 浩明	TEAM-MARGUERITE	15	14'13.779
18	58	松井 洪弥	TEAM PLUS ONE	15	14'19.675
19	34	畑中 要	FTR・タイヤナビ・Big☆敦	15	14'30.879
20	7	比企 徹	レーシングサブライム飴雲	15	14'31.874
21	21	江崎屋 学	プリミティブ&nyusan.com	15	14'32.178
22	16	赤岡 清	CLUB HARC-PRO.	15	14'33.206
23	18	根市 拓歩	18 GARAGE RACING TEAM	15	14'40.669

以上 規定周回数完走:

レース中のベストタイムNo. 87 花房 一樹 55.045 6/15 146.69km/h
規定周回数 11

POLE POSITION INTERVIEW

清水直樹が唯一の 52秒台で初のポール ポジション獲得!!



Pole Position

清水 直樹

52.994

『事前テストではだいたい皆53秒フラットまでだったので、自分の中ではウイークで52秒台に入れることを課題にしていた。予選でそれがクリアできたとはいえ、上位陣にはほとんど差がないので、アドバンテージはないに等しい。東コースとタイヤ(ビレリ)はバランスもよく、パフォーマンスは発揮できていると思う。決勝レースは接戦になると思うので、抜きどころの無い東コースでは、スタートとレース序盤でどのポジションににいるかが重要となる。その中でもできるだけ前に出てレースをリードしたい』

ST600

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	16	清水 直樹	52.994	RS-ITOH&KAZE
2	634	小西 良輝	53.094	MuSASHI RT/ハルクプロ
3	81	佐藤 裕児	53.166	YSP Racing Team
4	38	中富 伸一	53.181	HITMAN RC甲子園ヤマハ
5	48	手島 雄介	53.201	TSR with ALT
6	10	高橋 江紀	53.228	KeihinKohara.R.T.
7	14	岩田 悟	53.317	TSR
8	9	生形 秀之	53.377	エスバルスドリームレーシング
9	73	小林 龍太	53.429	MuSASHI RT/ハルクプロ
10	6	野田 弘樹	53.565	デルル・ハニービーレーシング
11	7	武田 雄一	53.619	HITMAN RC甲子園ヤマハ
12	4	稲垣 誠	53.665	バーニングブラッドRT
13	49	渡辺 一馬	53.668	TEAM PLUS ONE
14	19	佐竹 隆幸	53.674	チームOSG&モトスポーツ
15	76	関口 太郎	53.675	TEAM TARO&PLUS ONE
16	55	國川 浩道	53.733	DyDoミウレーシングチーム
17	15	津田 拓也	53.815	チームOSG&モトスポーツ
18	39	新庄 雅浩	53.852	RACING SUPPLY with AUTOBOY・&優匠
19	72	宮崎 敦	53.862	TEAM DAYTONA
20	52	鈴木 慎吾	53.921	MOTO WIN RACING
21	705	黒川 武彦	54.075	松本クリニックVIPスピード

以上予選通過車両:

22	21	佐藤 周	54.128	MST TAMITON-R GR
23	11	寺本 幸司	54.417	PLOT FARO パンテラー
24	26	東浦 正周	54.437	ブラズムーレーシングチーム
25	29	Hendriansyah	55.242	IKATAN

予選通過基準タイム(110%) 58.29

POLE POSITION INTERVIEW

ポイントリーダーの 菊池寛幸がP.P.獲得 決勝は混戦模様



Pole Position

菊池 寛幸

53.881

『事前テストでは今までの流れの確認と今回の状態を作る方向で行っていました。一応、いいところを見つけたのですが、もう一度よく考えて直してみたいと思っています。一時、チャンピオンの座は遠のくのかなと思いましたが、最終戦を迎えて振り返ってみるとポイントリーダーになっていた。予選はどのライダーも似たり寄ったりのタイムを出しているし、レース全体のレベルも上がってきているので、いいレースができるように頑張りたいと思います』

GP125

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	1	菊池 寛幸	53.881	チームウィーリ
2	14	大金 佑輝	53.955	ENDURANCE & 桶川塾
3	2	井手 敏男	53.966	チーム テック・2
4	4	浪平 伊織	54.123	Honda鈴鹿レーシングチーム
5	8	日浦 大治朗	54.139	Team NOBBY
6	20	大久保 光	54.18	18 GARAGE RACING TEAM
7	26	権藤 俊光	54.2	BATTLE FACTORY
8	68	篠崎 佐助	54.257	チーム テック・2
9	11	矢作 雄馬	54.276	桶川塾&ENDURANCE
10	5	山田 亮太	54.303	TEAM PLUS ONE
11	6	柳沢 祐一	54.356	18 GARAGE RACING TEAM
12	55	岩田 裕臣	54.417	DyDoミウレーシングチーム
13	16	鎌田 悟	54.419	ENDURANCE+桶川スポーツランド
14	51	藤井 謙汰	54.464	TSR
15	13	山田 誓己	54.525	伊藤レーシングGMDスズカ
16	91	森 俊也	54.603	racing sayama
17	12	仲城 英幸	54.62	Projectu7C HARC
18	25	山本 剛大	54.679	Team NOBBY
19	37	川瀬 啓一郎	54.705	チーム KOHSAKA
20	3	尾野 弘樹	54.751	BATTLE FACTORY
21	24	中本 翔	54.903	18 GARAGE RACING TEAM
22	45	長島 哲太	55.174	TeamProjectu 7C
23	48	浦本 修充	55.241	TEAM IRONBARONS
24	28	清水 敬仁	56.241	チームKOHSAKA

予選通過基準タイム(110%) 2'14.192

※ylは2009年ユースカップ登録者、P=プロト